

読めば完璧!! ハンディターミナルの機能と特長 ～ ハンディターミナル後編



●最新2次元コード対応ハンディターミナル
TBR-6500D

前号ではハンディターミナルが具体的に活躍しているさまざまなケースをご紹介しました。後編の今回はハンディターミナルが持つ基本的な機能をいくつかご紹介して、なぜハンディターミナルが多くの場所で使われるか、理由の一端を覗いて戴こうと思います。

ハンディターミナルが持つ機能

(1)大容量メモリでバッチ機能を使う

前号でハンディターミナルが使われるいくつかの具体的なケースをご紹介しました。

運送業で使われるハンディターミナルの紹介の中に「データの取り貯め(バッチ)」という機能について簡単に触れました。まずはこのバッチ機能にからお話しをはじめましょう。

バッチ機能とは前述の通りハンディターミナルに読んだデータを取り貯めて、あとでまとめてホストコンピュータなどにデータを受け渡す方法です。データを読むごとに無線などで転送するのではなく、データ収集時には蓄積に専念し、データ量がまとま

るところでデータを渡すということです。

このバッチ機能を使うには必要なものは何か。いちばん必要になるのは大容量のメモリです。当然ですが、メモリの記憶容量が大きければ大きい程、蓄積することができるデータは大きくなってきます。現在ではメーカー独自のOSで開発された機種のほか、Windows CE等のWindows製のOSを搭載した機種も人気で、中には128MBの大容量メモリを搭載している機種まであります。

(2)即時性には最適な無線通信

また、正確な現在庫を把握した上で、スピーディに出荷指示や生産指示を出さなければならぬといった「即時性」が求められるケースでは、無線でデータのやり取りをすることが多く見られます。

汎用性と堅牢さを兼ね備えたPDAタイプの2次元コード対応ハンディターミナルです。高速無線LANとbluetoothも標準搭載、IP54の防滴性能と環境耐性も重視。優れたコストパフォーマンスは多くの台数が必要な場所には最適の機種となっています。

「アクセスポイント」と呼ばれる無線中継機を現場に配置し、1台のホスト機器で複数のハンディターミナルからの通信を受け取るという方法です。この無線通信はBluetoothや無線LANなど、いくつかの方法がありますが、ハンディターミナル側にも主要な無線通信のインターフェイスが整っていますので、使い方次第でさまざまな運用が可能になります。

(3)アプリ開発にはOS搭載の製品を

OSを搭載したハンディターミナルについて言えば、メモリ容量の大きさもさることながら、アプリケーション開発の容易さに注目すべきでしょう。

業務用ハンディターミナルのリプレイスが検討される場合、それまで使ってきたアプリケーションの再構築が大きな障害になることがあります。既存のハンディターミナルが独自のOSや独自の開発言語を採用した製品の場合(このような製品は少なくありません)、新たな開発キットを購入してアプリケーションを再構築しなければならない

●ハンディターミナルに求められる機能

	宅配業務	入出荷	ピッキング	生産管理	検針業務	携帯POS
PDA端末	▲	○	★	★	★	★
FA向け端末	○	★	○	○	○	×
携帯性	★	○	○	○	○	○
堅牢性	★	★	○	○	○	○
大型液晶	▲	▲	★	★	★	★
運用時間	★	○	○	○	★	○
大容量メモリ	○	▲	▲	▲	○	○
無線LAN	▲	○	★	★	×	○
無線WAN	○	▲	×	×	▲	▲
RF-ID	×	▲	○	○	×	×
携帯プリンタ	○	○	▲	▲	★	★

要求のレベル: ★強い ○普通 ▲弱い ×不要

のです。

しかし、リプレイスを検討する場合、既存のアプリケーションはそのまま機種だけを変更したいといった声も多く聞かれます。このような場合、Windows系OSを搭載している機種なら新たに専用開発キットを購入する必要はなく、また一度アプリケーションを構築してしまえばデータを移動させるだけで済みます。ある一定の期間でリプレイスが行われる現場や高い頻度で増設などが行われる現場では、OSとアプリ開発という観点も検討して、機種選定を行うの

が良いでしょう。

ハンディターミナルには優れた拡張機能を持った製品もあります。

メモカードを装着して記憶容量を増やしたり、物流業、製造業のなど多くの業界で関心を持たれている「RF-ID」に対応したカードを装着したりできるものもあります。このような拡張性もハンディターミナルの大きな特徴であり、メリットなのです。

かつて「ハンドヘルドスキャナとパソコンを買ったほうが安上がりだ」といわれ、コストの面でバーコードリーダーを内蔵したハ

ンディターミナルの導入を見送られる時代もありましたが、時代の流れとともにその価格は下がり、現在では「一人一台」ともいえるような価格の機種も登場し始めています。

ご自身でトレーサビリティなどの運用方法のイメージし、それを具現化するシステムを構築していく中で、ハンディターミナルが大きな力を発揮することは間違いありません。

● 新製品情報

医療用医薬品向け「RSS合成シンボルオフライン検証機」リリース開始！！

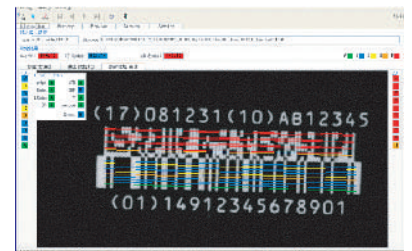
お厚生労働省から発布された施行規則により、2008年9月から医療事故防止を目的として、医療用医薬品に有効期限などを含めたコード体系の表示改正が施行されます。

現在、製薬メーカーはもちろん、包装機材メーカーや印刷機メーカーなど、医薬に携わる業界各社では表示改正施行に向けた動きが活発になってきていますが、印字されたシンボルが正しく印字されているのかどうかを検証する仕組みが乏しく、大きな課題となっていました。

そこで、当社では新コード体系の検証ニーズにお応えして「RSS/RSS合成シンボル オフライン検証機 TVR-3153」を開発し、販売を開始しました。

この検証機はパッケージなどの印刷部の検証以外にも、アンプルやバイアルなど、ラベルを貼り付けた状態での検証も可能になっています。さらに検証作業の操作性を上げ、判りやすい検証結果を表示する専用のGUIパッケージソフトをセットで提供します。

この他にも医薬品の製造ラインでリアルタイムに全数検証を可能にする「オンライン検証機TVR-3151NET」や、印字データ内容が日本製薬団体連合会の医療用医薬品表示ガイドラインに準拠しているかを検査する「データフォーマットチェッカー」も販売を開始しています。



いろいろQ&A

Q. 画面サイズのQVGAとはなんですか？

A. パソコン、PDAの画面サイズ(解像度)をQVGAとかVGA、SXGAなどと表記されています。PDA端末の大半はQVGAサイズの液晶画面が採用されており、数値にすると320×240画素になります。一昔前に主流であったパソコン画面サイズがVGA(640×480)で、PDA端末はVGAのQuarter(1/4)の画面サイズを規格化したので「QVGA」と呼ばれています。現在のパソコンの画面サイズの主流はXGA(1024×768)やSXGA(1280×1024)など、高解像度の液晶画面が主流になっています。

次号予告

2008年1月号は...

『新春大予測！
自動認識機器は今年こうなる』です。

Flags 1月号は1月8日発行です。

都合により内容が変更になる場合がありますので、予めご了承下さい。

TOHKEN 株式会社 東研
<http://www.tohken.co.jp>

本社 営業部	東京都新宿区西新宿2-7-1 新宿第一生命ビル
	Tel 03 (5325) 4311~3 Fax 03 (5325) 4318
名古屋営業所	Tel 052 (565) 9091 Fax 052 (565) 9094
大阪営業所	Tel 06 (6353) 5476 Fax 06 (6353) 6125
福岡営業所	Tel 092 (441) 3638 Fax 092 (441) 3639
日立営業所	Tel 029 (276) 9555 Fax 029 (276) 9556

Flags/フラグス 2007年12月号 Vol.32 2007年12月5日発行

編集・発行 株式会社 東研 〒163-0710 東京都新宿区西新宿2-7-1 新宿第一生命ビル
Tel 03 (5325) 4322 (編集事務局)

本誌に掲載の記事・写真・図版などは著作権法によって保護されており、無断で転用・転載・複製することはできません。